1 市政施行直後の市役所前 2 祖国復帰要求大行進 3 パイプライン道路の中心には大きなバルブボックスがあり渋滞の原因に 4 通貨切り替え前の現金確認で銀行前には長蛇の列ができた 5 市内に4か所あった映画館のひとつ「浦添琉映館」 6 1号線と呼ばれていた頃の国道58号線 7 730について勉強する小学生 8 730の歴史的瞬間を見ようと歩道橋に集まった市民 9 路面表示の工事も急ピッチで行われた 10 警察も総出だった730当日

11 祖国復帰の発展の願いを込めた若夏国体 12 若夏国体の聖火ランナー 13 バレーボールのコートぎりぎりまで押し詰めた観客 14 海邦国体開催時は宿泊施設がなく県外の選手たちを家庭に受け入れ応援していました 15 旧浦添市役所庁舎 16 「火の用心」が目印の旧浦添市消防署庁舎 17 指定ゴミ袋もなくゴミ収集車を追いかけて直接ポイっ 18 1993年夏の甲子園に初出場を決めた浦添商業高校 19 20 300年余りの歴史がある西原大綱引きで楽しそうな地元の皆さん

わったーまち

浦添市の復帰後、50年

沖縄本土復帰50周年記念特集

1972年5月15日に沖縄が本土に復帰して今年で50年。琉球政府から沖縄県へと移行し、大きな社会変化の中でたくましく暮らす当時の様子を写真で紹介します。

「浦添はね、昔は畑ばっかりだったよ」と昔から浦添に住む人たちは口をそろえます。戦後、焼け野原となった浦添に米軍の軍事物資集積所として牧港補給地区（キャンプキンザー）が整備されました。当時は米軍基地内の軍作業員や大工、建設業で働く人がほとんどで、浦添だけでなく、他の地域からも職を求めて人が移り住みました。基地の側にある屋富祖通りは、活気のある商店街となり、4件の映画館が建つなど、まちの中心地として繁栄しました。

本土復帰以前の通貨はアメリカドルで、飲み屋でウイスキーを頼み、1ドルあれば酔っ払って帰れたと話します。

本土復帰に対して、大人たちの間では大きな店ができることで地域のまちやーぐぁー（まちの小さな店）が無くなるのではと心配されていた一方で、若者たちはパスポート無しでの県外旅行を楽しみにして、明るく前向きな印象を抱いていたと言います。

復帰後は通貨が円に変わり、基地周辺地域から道路のアスファルト舗装が始まりました。やがて交通方法の変更「ナナサンマル」を経て、高低差が激しく悪路で有名なパイプラインなどの道路も整備され、周辺は畑から商店へと姿を変えました。

そして復帰50周年を迎える今年3月に、キャンプキンザーの返還された一部が国道58号線の8車線開通になりました。これから50年後、100年後の浦添のさらなる発展が期待されます。

今回教えてくれたのはこの人たち

安波茶自治会長
比嘉 政喜 さん

西原1区自治会長
宮里 弘和 さん

浦添の本土復帰からこれまでのあゆみ

1972 沖縄本土復帰
- 若夏国体開会
- 1973 牧港小学校開校
- 1974 浦添市民会館落成
- 1975 伊祖トンネル開通
- 沖縄国際海洋博覧会開催
- 1976 当山小学校開校
- 浦添小学校西原分校廃校

▲当山小学校開校と同時に、廃校になった浦添小学校西原分校

1978 730交通法変更
- 第1回浦添てだこまつり
- 1980 港川小学校開校
- 1982 宮城小学校・沢岻小学校開校
- 1984 港川中学校開校
- 1985 浦添警察署開署
- JICA沖縄国際センター開所
- 1987 浦添市民体育館完成
- 海邦国体開会
- 皇太子殿下がJICAを訪問
- 1988 前田小学校開校
- 1989 昭和天皇崩御

1989 新元号「平成」施行
- 浦添市美術館開館
- 1990 浦西中学校開校
- 1992 学校5日制開始
- 1995 阪神・淡路大震災
- 1996 浦添市民球場落成
- 1997 浦添市役所新庁舎落成
- 2000 沖縄サミット開催
- 2004 国立劇場おきなわ開場
- 2005 浦添グスクようどれ館開館
- 2011 東日本大震災
- 2017 映画『ハクソー・リッジ』上映
- 2018 沖縄西海岸道路開通

▲西海岸道路開通イベント「夢のかけはしリレーマラソン&ウォーク」。車両専用のため、最初で最後の光景。

2019 新元号「令和」施行
- サンエー西海岸パルコシティ開業
- 沖縄都市モノレール浦添延伸部分開業

▲開業を待ち望んだ人たちが集まったてだこ浦西駅

- 2020 首里城火災
- 新型コロナウイルス流行
- 市政施行50周年